

(Citation 1)

JP Utility Model Appln. Disclosure No. 49-74392 - June 27, 1974

Application No. 47-118177 - October 14, 1972

Inventor: Same as the Applicant

Applicant: Nobuyuki SASAKI, Aomori, Japan

Title: Baby bottle

Detailed Description of the Device:

.....

The present Device relates to the structure of a baby bottle which enables the constantly stable feeding without generating air bubbles inside of the bottle.

.....

In the present Device, the air enters into the bore 12 through a first air hole 11 pierced on the bottle holder-shaped basal plate 10. The rubber cylindrical body 7 covered on the cap-shaped body is pushed to be extended outwardly against its pressure to form a space for the air passage and to open the second air hole 9. And thereby, the air enters inside of the baby bottle body 1 through a second air hole 9 pierced on a part of the cap-shaped body 8.

.....

When the pressure inside of the baby bottle 1 increases or decreases, the cap-shaped body 8 and the rubber cylindrical body 7 which is mounted to overlap the said body 8 can act as a vent valve to keep the constant air pressure inside of the baby bottle body 1. Further, a fringe part 7' of the rubber cylindrical

body 7 covered on the cap-shaped body 8 acts as a packing to keep the air tightness of the baby bottle body 1 and to prevent the liquid leakage. Accordingly, the present Device achieves various practical effects such as keep the bottle clean and performing the stable feeding without generating an air bubble inside of the baby bottle.

.....

⑤補乳びん

- ①実 願 昭47-118177
②出 願 昭47(1972)10月14日
③考 案 者 出願人と同じ
④出 願 人 佐々木伸行
八戸市白銀町州賀端1の28
⑤代 理 人 弁理士 井上重三

⑥実用新案登録請求の範囲

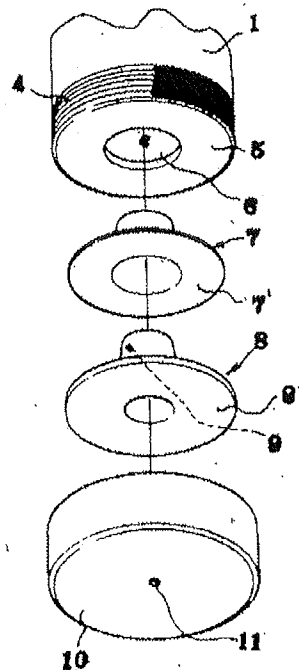
図面に示すように、帽状体8および略円錐台状栓体13、16のいずれかにゴム製筒状体7を被冠して一体となし、これを補乳びん本体1の円孔6より補乳びん本体1の内方へ押嵌せしめ、前記帽状体8および略円錐台状栓体13、16の夫々の裾部8'、15、18が重なつて補乳びん本体1の底盤5の下方へ位置する如く設定して、袴状底盤10を補乳びん本体1の螺条部4へ着脱自在に螺合せしめて一体構造となし、更に該袴状底盤10に第一通気孔11をまたゴム製筒状体7と被冠する帽状体8に第二通気孔9を、更に前記栓体

13に第二通気孔14を、栓体16にT字状通気孔17を夫々設けてなることを特徴とした補乳びん。

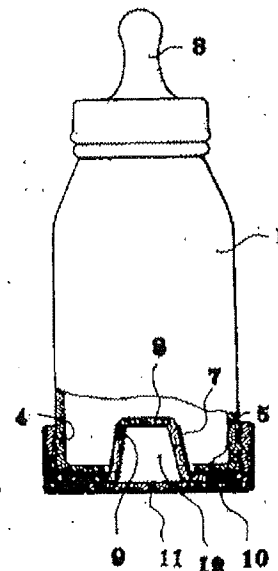
図面の簡単な説明

図面は本考案の各実施例を示し、第1図は第一実施例の分離斜視図、第2図は同上全体の縦断側面図、第3図は第二実施例の要部分離斜視図、第4図は第三実施例の要部分離斜視図、第5図は第一実施例の空気導入経路を示す略図、第6図は第二実施例の空気導入経路を示す略図、第7図は第三実施例の空気導入経路を示す略図である。図中1……補乳びん本体、2……上方開口螺条部、3……弾性乳首、4……螺条部、5……底盤、6……円孔、7……ゴム製筒状体、7'……ゴム製筒状体の裾部、8……帽状体、8'……帽状体の裾部、9……第二通気孔、10……袴状底盤、11……第一通気孔、12……内腔部、13……略円錐台状栓体、14……第二通気孔、15……栓体の裾部、16……略円錐台状栓体、17……T字状通気孔、18……栓体の裾部。

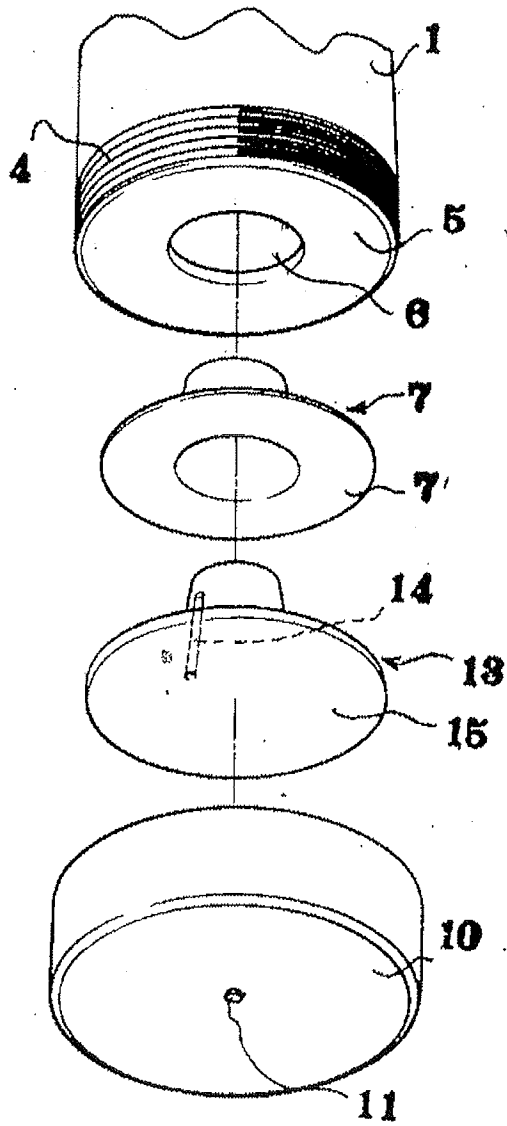
第1図



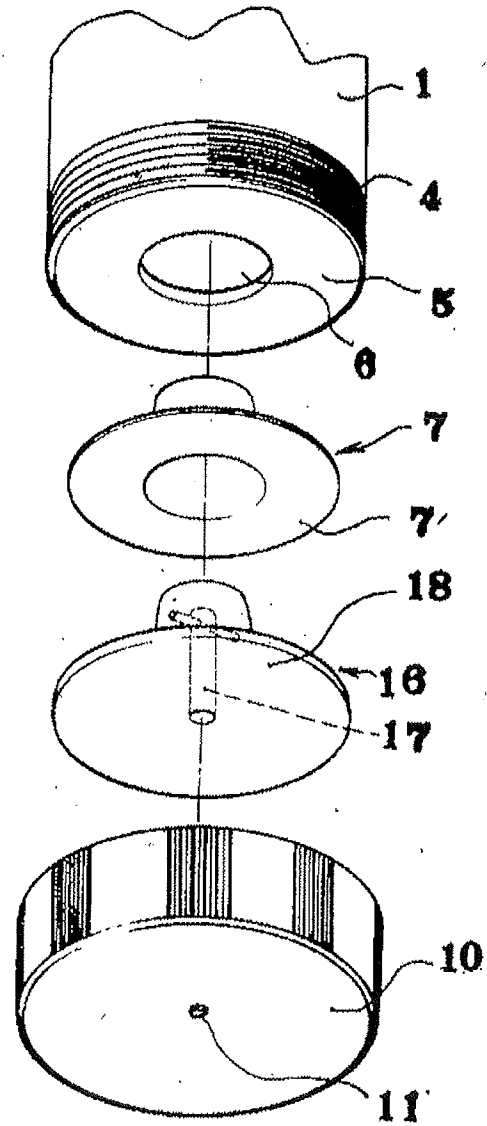
第2図



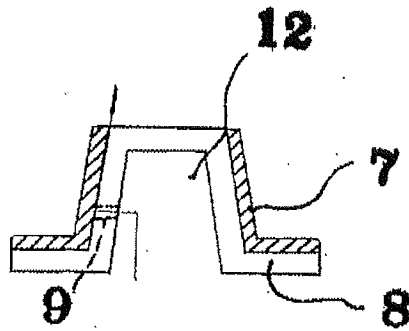
第3図



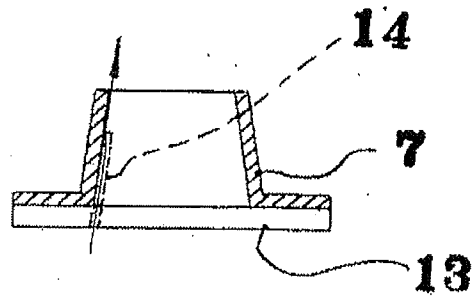
第4図



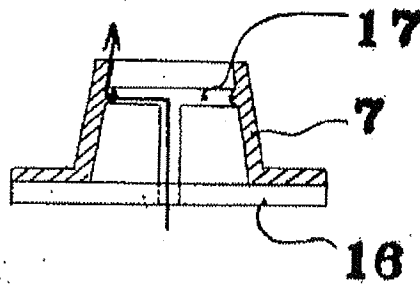
第5図



第6図



第7図





(1,500円)

実用新案登録願

昭和47年10月14日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 考案の名称

は乳びん

2. 考案者

住所 実用新案登録出願人と同じ
氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 青森県八戸市白銀町州賀端1丁目2番地
氏名 佐々木 伸行
(国籍)

4. 代理人 〒105

住所 東京都港区芝虎ノ門18番地(三田ビル4階)
電話 (03) 504-1441(代)
氏名 (5564) 弁理士 井上 重三

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) 委任状
- (5) 出願審査請求書 1通



47 118177

明 細 書

1. 考案の名称

補 乳 び ん

2. 実用新案登録請求の範囲

図面に示すように、帽状体 8 および略円錐台状栓体 13、16 のいずれかにゴム製筒状体 7 を被冠して一体となし、これを補乳びん本体 1 の円孔 6 より補乳びん本体 1 の内方へ押嵌せしめ、前記帽状体 8 および略円錐台状栓体 13、16 の夫々の基部 8'、15、18 が重なつて補乳びん本体 1 の底盤 5 の下方へ位置する如く設定して、~~前記~~ 筒状底盤 10 を補乳びん本体 1 の螺入部 4 へ着脱自在に螺合せしめて一体構造となし、更に該筒状底盤 10 に第一通気孔 11 をまたゴム製筒状体 7 と被冠する帽状体 8 に第二通気孔 9 を、更に前記栓体 13 に第二通気孔 14 を、栓体 16 に T 字状通気孔 17 を夫々設けてなることを特徴とした補乳びん。

3. 考案の詳細な説明

本考案は補乳びんの内部に気泡を発生させるこ

となく、常に安定した授乳のできる補乳びんの構造に関するものである。

以下本考案の一実施例を図面について説明すると、1は例えばポリカボネートを使用材質とした補乳びん本体を示し、該補乳びん本体1の上方開口螺条部2に公知の弾性乳首3を啖合せしめてある。図中4は前記補乳びん本体1の下方外周部に設けた螺条部、5は補乳びん1の下方に設けた底盤、6は円孔、7はパッキングを兼ねたゴム製筒状体、8は帽状体、9は該帽状体8の一部に穿設した一個もしくは複数個からなる第二通気孔、10は前記補乳びん本体1の下方外周部に設けた螺条部4と螺合して、補乳びん本体1と一体となる袴状底盤、11は該袴状底盤10に穿設した第一通気孔である。

即ち、本考案は前記帽状体8にゴム製筒状体7を被冠して一体となし、これを前記補乳びん本体1の円孔6より補乳びん本体1の内方へ押嵌せしめ、前記帽状体8の側部8'とゴム製筒状体7の側部7'が夫々重なつて補乳びん本体1の底盤5

の下方へ位置する如く設定し、しかる後、前記袴状底盤 10 を補乳びん本体 1 の螺糸部 4 へ着脱自在に螺合せしめて第 2 図々示の如く一体構造としたものである。

周知のように授乳時において、補乳びん 1 内のミルクが漸減した場合、補乳びん 1 の内気圧は低下する。

本考案においては、先ず前記袴状底盤 10 に穿設した第一通気孔 11 を介して内腔部 12 へ空気が導入され、次いで該空気は帽状体 8 の一部に穿設した第二通気孔 9 を経て、帽状体に被冠したゴム製筒状体 7 をその圧力に抗して外方へ押広げて空気の導通する間隙を形成し前記第二通気孔 9 を開いて補乳びん本体 1 内部へ空気を導入する。

(第 5 図矢示方向参照)

補乳びん本体 1 側の圧迫による補乳びん 1 内部における内気圧が上昇した場合は、前記ゴム製筒状体 7 が萎縮して帽状体 8 の第二通気孔 9 を閉止し、排気または排液することがない

以上の如く本考案によるときは、補乳びん本

体 1 の内側もしくは底部にミルク等の残滓等が付着、滞積した場合でも、従来のように弾性乳首 3 を外して補乳びん本体 1 の内部を刷子等で洗滌していた煩わしさから解消できる。

即ち補乳びん本体 1 より袴状底盤 10、帽状体 8 およびゴム製筒状体 7 を順次取外して夫々の部材を個々別々に洗滌、消毒することが容易となり、併せて補乳びん全体を衛生的に保つことができる。

また洗滌、消毒後は、補乳びん本体 1 へ袴状底盤 10、帽状体 8 およびゴム製筒状体 7 の装着が容易であり、更に帽状体 8 とこれに重合装着するゴム製筒状体 7 は、補乳びん 1 内部の内気圧の低下、上昇において通気弁作用を行い得て、常時補乳びん本体 1 内部の空気圧を一定に保持することができ、しかも帽状体 8 に被冠されるゴム製筒状体 7 の裾部 7' は補乳びん本体 1 との気密を保持し漏液防止を兼ねるパッキング作用を司さどり、以て、補乳びん内部に徒らに気泡を発生させることなく、常時清潔を保つて安定した授乳が行える等、幾多の実用的な効果を発揮する。

第 3 図は上記実施例に関連する第二実施例を図示したものである。

即ち、この実施例では上記帽状体 8 に代る略円錐台状栓体 13 を形成し、該栓体 13 に第二通気孔 14 を貫設したもので、補乳びん本体 1 の螺条部 4 と螺合する袴状底盤 10 に穿けた第一通気孔 11 より導入した空気が第 6 図矢示の如く直接第二通気孔 14 に導入されゴム製筒状体 7 の開閉を行なうものである。なお 15 は栓体 13 の端部である。

第 4 図は更に他の実施例を示し、この場合は、略円錐台状栓体 16 に T 字状通気孔 17 を穿設したもので、補乳びん本体 1 の螺条部 4 と螺合する袴状底盤 10 に穿けた第一通気孔 11 より導入した空気が第 7 図矢示の如く直接 T 字状通気孔 17 に導入され、ゴム製筒状体 7 の開閉を行うように構成したものである。

なお 18 は栓体 16 の裾部、図示の矢印方向は空気の導入経路を示す。なお上記第 3 図および第 4 図の二つの他例において、他の構成要件と作用

効果は第1図、第2図々示の基本的な実施例と同一であるためその説明を省略する。

なお本考案において補乳びん本体1は上記構造に限定されることなく、本考案の目的に沿い設計変更可能である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の各実施例を示し、
 第1図は第一実施例の分離斜視図、
 第2図は同上全体の縦断側面図、
 第3図は第二実施例の要部分離斜視図、
 第4図は第三実施例の要部分離斜視図、
 第5図は第一実施例の空気導入経路を示す略図、
 第6図は第二実施例の空気導入経路を示す略図、
 第7図は第三実施例の空気導入経路を示す略図である。

図 中

- 1 ———— 補乳びん本体
- 2 ———— 上方開口螺旋部
- 3 ———— 弾性乳首
- 4 ———— 螺旋部

- 5 ———— 底盤
- 6 ———— 円孔
- 7 ———— ゴム製筒状体
- 7' ———— ゴム製筒状体の側部
- 8 ———— 帽状体
- 8' ———— 帽状体の側部
- 9 ———— 第二通気孔
- 1 0 ———— 褥状底盤
- 1 1 ———— 第一通気孔
- 1 2 ———— 内腔部
- 1 3 ———— 略円錐台状栓体
- 1 4 ———— 第二通気孔
- 1 5 ———— 栓体の側部
- 1 6 ———— 略円錐台状栓体
- 1 7 ———— T 字状通気孔
- 1 8 ———— 栓体の側部

実用新案登録出願人

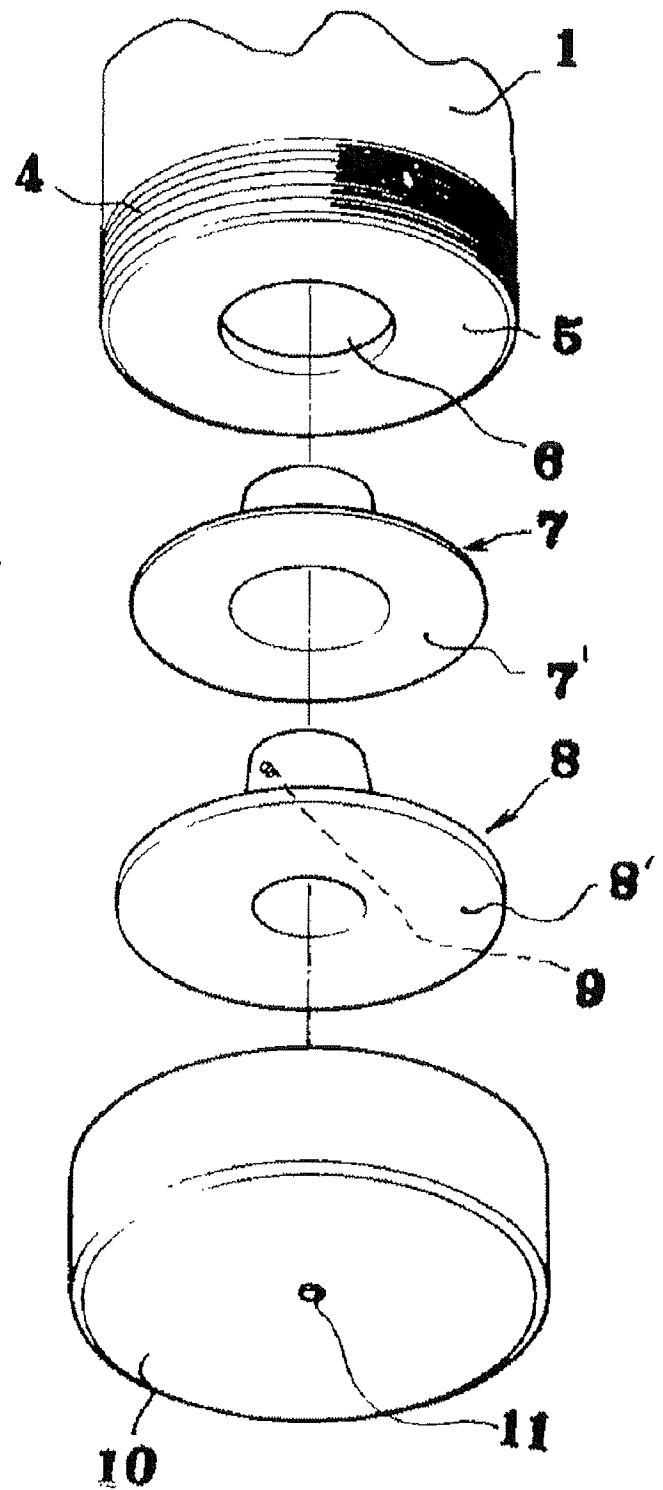
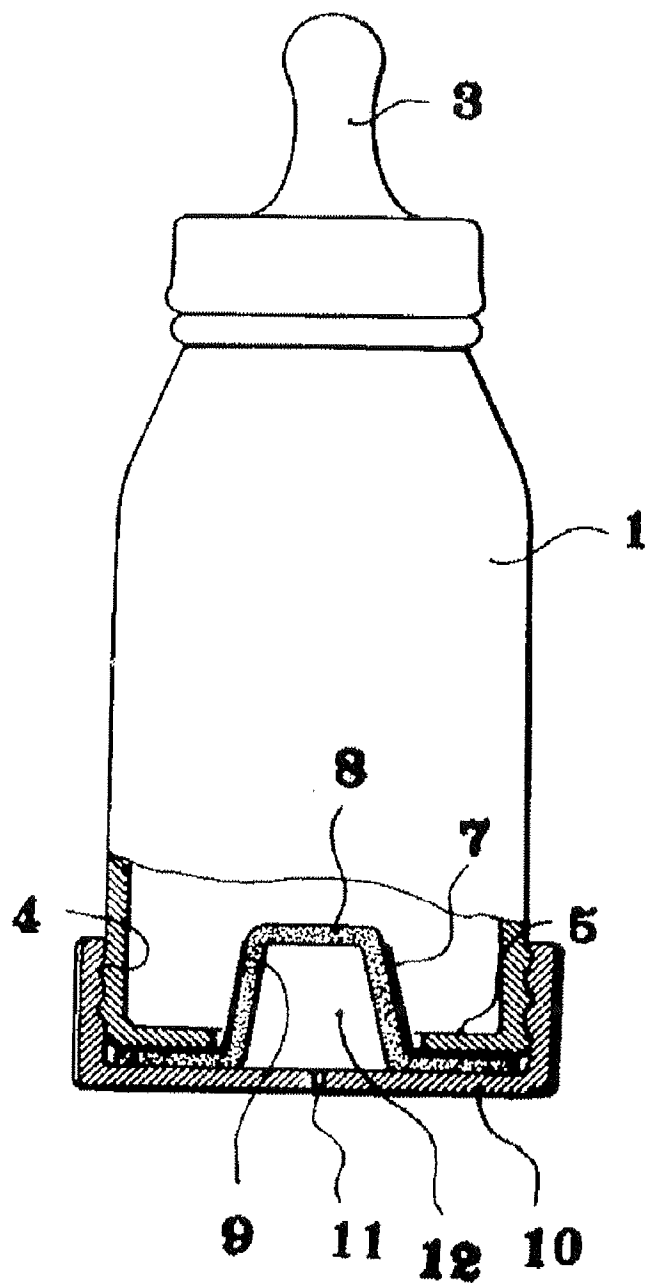
佐々木伸行

代理人

井上重三

第 2 図

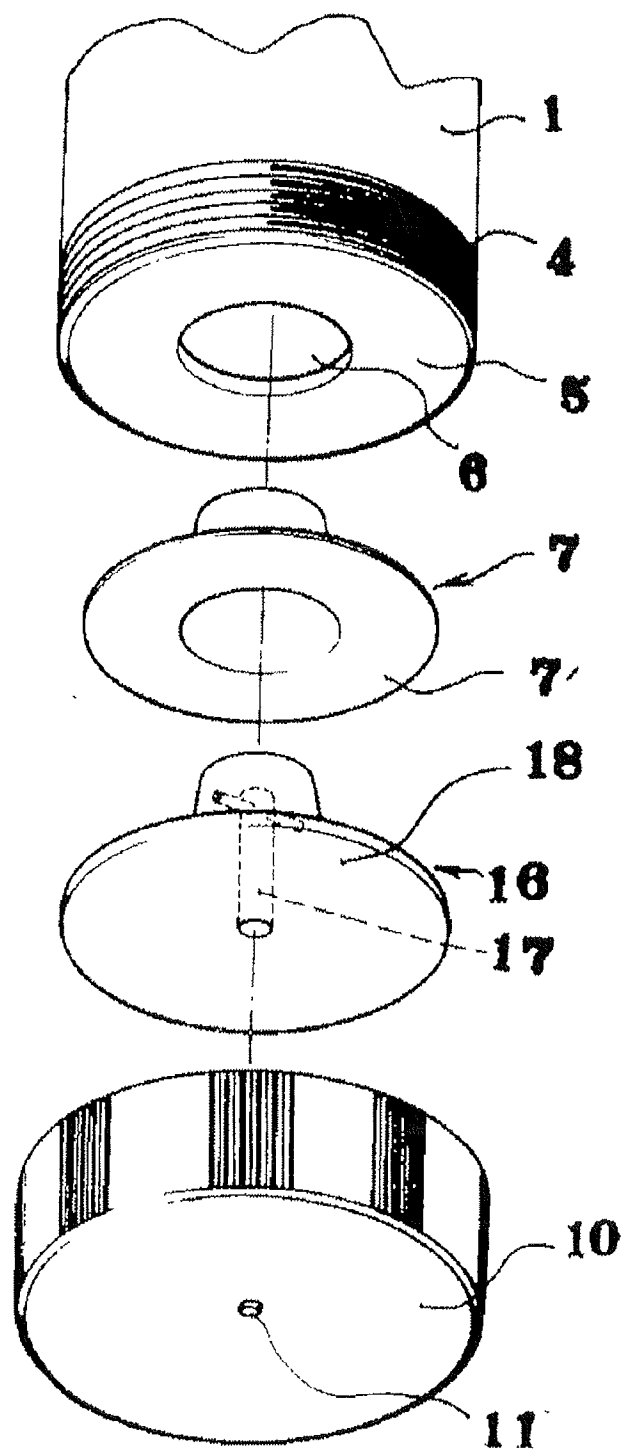
第 1 図



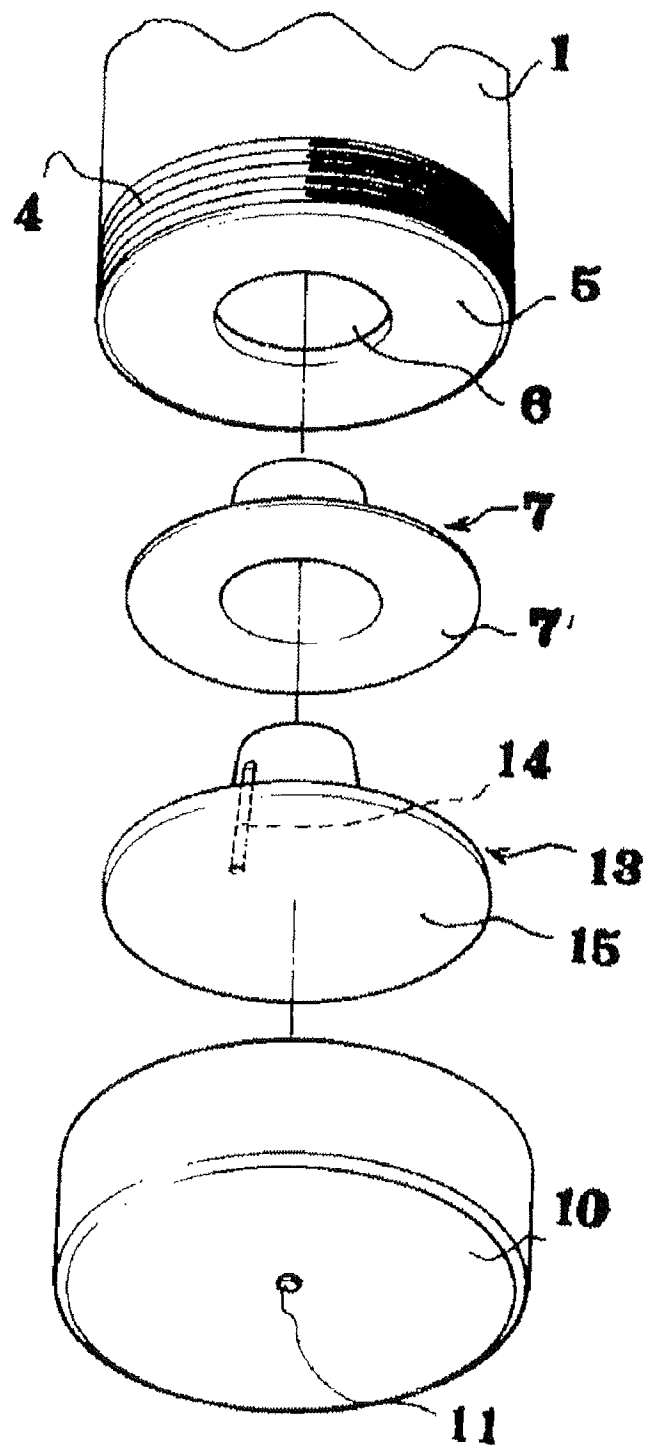
4392

代理人 井上重三

第 4 圖



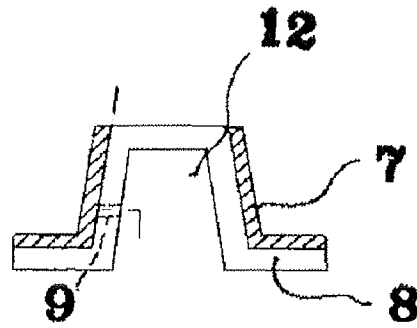
第 3 圖



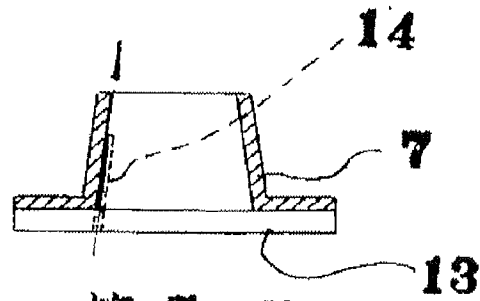
74332

代理人 井上重三

第 5 圖



第 6 圖



第 7 圖

